

1. 基本情報

事務事業名	03 美術館事業				事業類型	施設運営受益者負担型				
予 算	会計	10 一般会計	款	10 教育費	項	04 社会教育費	目	04 美術館費	予算額	36,383 千円
長期計画	章	4 文化・交流活動がいざつくまち		施策分野	2 歴史・文化・芸術		基本施策	(3) 市民文化・芸術活動の振興		
関連計画	実施計画	事業番号・事業名								
根拠法令等	博物館法、青梅市美術館条例									

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	観覧者、美術館利用者	目的（どういう状態にしたいのか）	市民の美術の振興を図る。
-----------	------------	------------------	--------------

3. 事業の指標と単位当たりコスト

								平成30年4月1日現在人口	134,708 人
成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	市民1人当たりコスト(b/人口)	
観覧者数	年間観覧者数 (市民ギャラリーを除く)	人	目標			10,000	10,000	721.4 円	
			実績		9,348	18,243	8,895		
			単位コスト	円	7,791 円	5,327 円	-2,464 円		市民1人当たり純行政コスト(f/人口)
市民ギャラリーの稼働率	開館日数に対する稼働率	%	目標			45.0	45.0	685.2 円	
			実績		42.7	50.0	7.3		
			単位コスト	円	1,705,714 円	1,943,580 円	237,866 円		

4. 行政コスト計算書

										(単位：千円)				
勘定科目		年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A	勘定科目		年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A			
経常費用	人件費	職員給与費	28,186	28,639	453	経常収益	分担金・負担金	0	0	0				
		賞与等引当金繰入額	2,202	2,361	159		使用料・手数料	1,374	2,831	1,457				
		退職手当引当金繰入額	0	21,017	21,017		その他	4,738	2,048	-2,690				
		その他	129	129	0		合計(a)	0	6,112	4,879	-1,233			
	小計		0	30,517	52,146	21,629	臨時損失(c)	0	0	0				
	業務費用	物件費	28,984	32,902	3,918	臨時利益(d)	0	0	0					
		維持補修費	2,596	1,519	-1,077	臨時損益(d-c-e)	0	0	0					
		減価償却費	10,360	10,160	-200	純行政コスト(f)=(b+e)-a	0	66,722	92,300	25,578				
		その他	0	0	0	科目		年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A			
	小計		0	41,940	44,581	2,641	国庫支出金	0	0	0				
経常費用	支払利息	0	0	0	都支支出金	0	0	0						
	その他の業務費用	0	0	0	その他	6,112	4,879	-1,233						
	小計	0	347	422	75	合計	0	6,112	4,879	-1,233				
小計		0	72,804	97,149	24,345									
移転費用	補助金等	30	30	0										
	その他	0	0	0										
小計		0	30	30	0									
合計(b)		0	72,834	97,179	24,345									

(単位：%)

区 分	年度	29 年度	30 年度
有形固定資産減価償却率		80.1	80.7
受益者負担割合(a/b)		8.4	5.0

5. 人員体制

					(単位：人)			
	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A				
職員		2.90	2.90	0.00				
再任用職員		1.00	1.00	0.00				
嘱託職員		0.00	0.00	0.00				
計	0.00	3.90	3.90	0.00				

6. 行政コストの主な事項

決算額の主な内訳	経常費用	決算額の主な内訳	経常収益・臨時損益
<ul style="list-style-type: none"> 美術館管理経費 <ul style="list-style-type: none"> 光熱水費 5,827,637円 施設管理委託料 4,082,869円 設備保守委託料 3,703,417円 修繕料 1,513,587円 美術館事業経費 <ul style="list-style-type: none"> 展覧会制作委託料 5,635,915円 消耗品費 2,076,276円 作品運搬等委託料 1,760,026円 		<ul style="list-style-type: none"> 【使用料・手数料内訳】 <ul style="list-style-type: none"> 美術館使用料 345,200円 観覧料 2,486,340円 【その他の主な内訳】 <ul style="list-style-type: none"> 光熱水費等業者負担分 126,181円 コンサート入場料 38,500円 書籍販売収入 90,000円 物品販売収入 1,793,718円 	
主な増減理由	特別展「ダンボールアート遊園地 集まれ子どもたち!!」の開催にかかる消耗品費、光熱水費等の需用費や、作品の運搬および制作にかかる委託料が増加したため。	主な増減理由	特別展「ダンボールアート遊園地 集まれ子どもたち!!」の開催により、観覧料や物品販売収入が増加したため。

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		29年度末 A	30年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	29年度末 A	30年度末 B	対前年度 B-A	
資産の部	有形固定資産	事業用資産	1,047,078	1,044,350	-2,728	負債の部	固定負債	0	0
		土地	886,792	886,792	0		地方債	0	0
		建物	695,507	702,158	6,651		退職手当引当金	25,121	24,637
		減価償却累計額	-556,846	-565,277	-8,431		その他	0	0
		その他	21,625	20,678	-947		流動負債	0	0
		インフラ資産	0	0	0		1年内償還予定地方債	0	0
		土地	0	0	0		未払金	0	0
		工作物	0	0	0		賞与等引当金	2,202	2,361
		減価償却累計額	0	0	0		その他	0	0
		その他	0	0	0		合計	27,323	26,998
	物品	1,183,977	1,183,936	-41	純資産の部	固定資産等形成分	2,248,765	2,245,870	
	減価償却累計額	-12,290	-12,416	-126		余剰分(不足分)	-27,323	-26,998	
	無形固定資産	0	0	0		合計	2,221,442	2,218,872	
	投資その他の資産	30,000	30,000	0		負債および純資産の部 合計	2,248,765	2,245,870	
流動資産	現金	0	0	0	合計	2,248,765	2,245,870	-2,895	
未収金	0	0	0						
徴収不能引当金	0	0	0						
その他	0	0	0						
合計	2,248,765	2,245,870	-2,895						

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産(土地)	勘定科目	事業用資産(建物)
決算額の主な内訳	美術館用敷地(公簿) 4,006.41平方メートル 第2駐車場用地(公簿) 1,767.34平方メートル	決算額の主な内訳	美術館 鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階 延床面積 1,674.01平方メートル 喫茶室 鉄筋コンクリート造 1階 延床面積 70.5平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	館内ハロゲン化物消火設備の更新により増額(6,651千円)

9. 事業の評価【一次評価】

29年度末時点の課題事項	<ul style="list-style-type: none"> 特別展「昭和叙情・心のふるさとー谷内六郎作品展」は、中高齢者に好評で、観覧者数が多かったが、企画展の観覧者数は、前年度と比べ少なかった。 美術館は昭和59年に開館してから34年を経過し、郷土博物館との統合に向けて検討しているが、照明や空調、エレベーターなど各設備の経年劣化が確認されている。 	対応結果	未解決	事業目的を達成するための30年度事業目標【Plan】	<ul style="list-style-type: none"> 特別展については、年1回、大人を対象にしたものと、子どもを対象にしたものを交互に開催していく。 企画展については、「地元ゆかりの作品」、「わかりやすさ」、「親しみやすさ」のコンセプトで展示を企画していくとともに、他の美術館との連携を図る。 照明や空調、エレベーターなど各設備の改修をはじめ、郷土博物館との統合に向けて展示室や収蔵庫などの改修を行う。
上記目標達成に向けた主な活動実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> 特別展「ダンボールアート遊園地 集まれ子どもたち!!!」は、11,563人の観覧者が来館し、開館記念展に次ぐ、多くの観覧者を集めた展覧会となった。このほか、企画展を4回、共催展の小学校造形作品展を開催した結果、合計18,243人、1日平均91人となった。前年度と比較して、合計で8,895人の増、1日平均で40人の増となった。観覧者数の増加要因としては、夏休み期間中に子どもたちが、ダンボールで作られた、さまざまなアート作品を見たり、遊んだりすることができ、そのことが保護者にも受け入れられたことが考えられる。また、今回の特別展の開催によって、多くの子育て世代の方々や子どもたちに、美術館の存在を知っていただくことができた。 経年劣化の進む各設備について、施設運営に支障のないよう緊急的な不具合に対応する修繕を進めた。 				
事業評価【Check】				総合評価【Check】	
【効率性】事業の進め方	B(良い)	【経済性】予算の使い方	B(良い)	【有効性】施策達成に対し	B(良い)
評価結果から明らかになった課題事項	<ul style="list-style-type: none"> 特別展「ダンボールアート遊園地 集まれ子どもたち!!!」は、多くの観覧者が来館し、大好評であったが、企画展の観覧者数は依然として低調な状況にある。 経年劣化による緊急修繕を実施しているが、建物本体や空調設備、照明設備、エレベーターなど更新、改修の必要な部分に計画的な対応が進められていない。 	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 特別展については、年1回、大人にも子どもにも親しみやすい内容のものを開催し、観覧者数の増加を目指す。 企画展については、「地元ゆかりの作品」、「わかりやすさ」、「親しみやすさ」をコンセプトに、来館者アンケート等を参考に企画内容を検討、開催していく。 現在進めている美術館と郷土博物館の複合化の検討に合わせ、施設全体の改修、更新についても検討を進める。 	今後の方向性【Action】	改善

※A 非常に良い=改善の余地なし、B 良い=必要に応じて改善、C 悪い=改善または廃止を検討

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評価	<p>観覧者数および市民ギャラリーの稼働率については、前年度と比較しいずれも増加しており、特に観覧者については、前年度実績の2倍に増加するなど、特別展の企画実施が効果的であったことを示しており、市民の美術振興を図ることを目的とした観覧者数の増加に向けた取組ができた。</p> <p>しかしながら、単位コストが高額となっている点については、依然として変わらないことから、入場料収入を確保する観点からも、今後も集客力の高い展覧会を継続して打ち出していく必要がある。それに当たっては、市の財政状況が厳しいことから、より低コストで魅力的な展示を実施できるよう、さらなる検討・研究する必要がある。</p> <p>また、施設の老朽化に伴う維持補修費も大きな負担となっていることから、今後、郷土博物館との統合を検討していくなかで、施設全体の改修・更新についても、計画的に進める必要がある。</p>
----	---